



## 温故知新(おんこちしん) ～ 今年もつながる『にしこおり』～

新年あけましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。さて早速ですが、今年の干支(えと)は午(うま)、ところで、この干支ってどうして決まったのかご存じでしょうか。

昔々の大みそか、神様が動物たちを集めて「しんねんのごあいさつにきなさい。はやいものからじゅんに12ばんまで、いちねんかんずつ、そのとしの大將(たいしょう)にしてあげよう」と話されました。動物たちは大喜び。中でも丑(うし)は「おれはのろのろもんだから、こんやのうちからでかけよう」と夜道を歩きだしました。お正月がやってきました。すでに到着していた丑は、「ぎぎぎぎぎーっ」と門が開くと「もおーっ」と鳴きゆっくり歩きだしました。その時、丑の背中に乗っていた子(ねずみ)が飛び降り、「おさきにちゅー」と走って門を通過し1番になりました。丑は「べつに2ばんでもいいんだもおーっ」とあわてずに歩いて2番となりました。寅(とら)は、1番をめざし「がおっ」と大声をあげ猛ダッシュしてきたが3番、「とらのうしろならあんぜんだぴょんぴょん」と卯(うさぎ)が4番、辰(たつ)は空から舞い降りて5番、辰の風に乗ってにょろにょろ巳(へび)が6番、「ぱっかぱっかひひーん」かっこよくやってきた午(うま)が7番、小走りについてきた未(ひつじ)が8番、「きーきー」「わんわん」けんかをしていた申(さる)と戌(いぬ)の間に入り「なかなかおりするのだ、こけこっこー」と酉(とり)が仲裁してくれて、申が9番、酉が10番、戌が11番となり、「あぶなかったぶひー」門前を走り過ぎた亥(いのしし)が、歩いて引き返してきてラスト12番で門は閉められました。「こたつにはいって、ねてからいくにゃあ」みんなのよく知っている猫(ねこ)が入っていないのは、そうです、寝過ごしてしまったからなのでした。

(参考：「十二支のおはなし」内田麟太郎・文、山本孝・絵 岩崎書店)

また、一日24時間を『子の刻』(ねのこく、23:00～0:59)、『丑の刻』(うしのこく、1:00～2:59)と十二支の順番に分けていくと、『午の刻』(うまのこく)が11:00～12:59となり、『午の刻』の真ん中(12:00)が『正午』(しょうご、まさにうまのこく)となります。『午前』『午後』は、それぞれ『正午』より前、後をさします。さらには、牛(うし)のように角がないから、午(うま)という漢字ができたという説もあります。

さあ、錦郡幼稚園も午の年にふさわしく、こどもたちはもとより、保護者や地域、『にしこおりファミリー』みなさんの駅(プラットフォーム)として、また名馬・駿馬となれますよう、真の意味での無駄を省き、時に自然の姿に驚愕しながら、数々の体験や経験を重ね、未来にも想いを馳せながら、大地を駆けていきます。引き続きの応援と協力そして協同のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

園長 塩野 義和